

第 14 回 匠瑤市まち・ひと・しごと創生市民会議 会議録

開催日時	
令和 6 年 1 1 月 7 日（木） 1 0 : 0 0 ~ 1 2 : 0 5	
開催場所	
匠瑤市民ふれあいセンター第 3 会議室	
出席者	
委員長	鎌田元弘
副委員長	—
委員	田邊久利、那智博行、鈴木正雄、湯浅太郎、椎名勤、江波戸友美、加瀬功一
（事務局）	
企画課：増田課長、小泉主幹、菱木主査補	
欠席者	
委員	齋藤正樹、太田雅之、澁谷義範、大木貞義、小松達也

※委員については敬称略

会 議 内 容
【次第】 1 開 会 2 あいさつ 3 自己紹介 4 議 事 （1）委員長、副委員長の選出について （2）匠瑤市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について （3）「匠瑤市人口ビジョン」改定方針及び「第 3 次匠瑤市まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定方針について （4）匠瑤市の高校 3 年生に対するアンケート調査結果について （5）その他 5 閉 会 【議事内容】 （1）委員長、副委員長の選出について 委員長を鎌田元弘氏に決定した。副委員長については候補者が不在のため、次回へ持ち越しとした。 （2）匠瑤市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について（報告） 資料に基づき事務局から説明した。主な質疑・意見は次のとおり。

会 議 内 容

《委員長》

ご質問、ご意見等あるか。

《委員》

移住定住相談件数が78件と令和5年に急に増えている。令和6年に入ってから定住の件数はこの資料には掲載されていないが、実績の増加はあるか。

《事務局》

令和6年度の実績については年度途中のため、まだ取りまとめていない。改めて別の機会に報告できればと思う。

関係部分として、転入者マイホーム取得奨励金を活用した転入者数の実績が38人であった。令和5年度に相談を受け、年度中に実績として表れた部分と、今後表れる部分があると思うが、移住定住相談を行った効果であると考える。

《委員》

良い実績が数字で表れると良いと思う。続けて質問させていただく。

地方創生の国家予算が倍になるとほぼ決定したように理解しているが、このニュースはご存知か？

《事務局》

地方創生関係の予算を倍増させるという話があったとは記憶している。

《委員》

地方創生のための予算を制定時の倍にすると決定したと理解できる文面を見ている。今お伺いしても返答ができないと思うが、精力的に研究して頑張っていたきたい。

《委員》

この事業の中で外国人を対象にしている施策があるか。例えば定住に関する方針とか、匝瑳市としてのビジョンがこの資料にはなさそうなので、そういったものがあるのかどうかと、今後の考え方をお聞かせいただきたい。

また、高校生のまちづくりへの参加は以前からあるが、中学生や小学生に向けて何かやらなくていいのか、と考えている。なるべく早く仕事に触れ、地域で働くことを知ってもらうため海匠地域振興事務所と進めていたイベントは、コロナ禍や県の予算の関係で、改めてという状況となっている。

ただ、小学生の学校行事として市民まつりのたるみこしなどリソースがないわけではない。進んでいるところだと、中学生ぐらいから金融や株の教育を実施しているが、中学生向けの取組は何かあるのか伺いたい。

《委員》

平成年間から事業を実施しているが、最終的に参加する企業や学校が減ってしまい、令和4年を最後に事業は行っていない。最後に実施した際には東総工業高校しか参加がなかったこともあり、やり方や事業自体この形でいいのか等、検討しなくてはいけないと考えている。

《委員》

今の話は高校生を対象とした意見交換会のことだが、自分は子どもたちが参加するさんさんフェスタ、つまり県民の日イベントのことを指している。銀行

会 議 内 容

も参加され、子ども向けに 1 億円の量や重さを知ってもらう体験や職業体験を実施しているが、そういうものが先々のことを考えても大事かと思う。

コロナ前後で質が変わってきていると思うので、事業への参加が少ないのであれば、別の事業に切り替える必要もあると思う。

また、就労だけではなく匠瑳市の文化を学ぶなど、なるべく低学年から愛着を持ってもらうために中学生が関係することが非常に大事ではないか考える。

《委員長》

別の事業の話になるが、大学でも地域の小学生の夏休みの宿題を通して技術を教えるなど、低学年のうちから技術立国の日本に興味を持ってもらう取組を行っている。そこから仕事とキャリアデザインと技術とをどう繋げていくかというものを学校でも取り入れている。ご参考になればと思う。事務局として、ただいまの委員の発言に関連して何かあるか。

《事務局》

外国人を対象としているのだが、人口ビジョンは基本的に国勢調査を基に推計しているため、日本人外国人と分けるではなく、市全体として人口増加に向けた取組として戦略を立てている。戦略としては外国人に特化した取組を行っているわけではないということでご理解いただきたい。

また、小中学生の段階からの取組について、まさにその通りであると考えて。愛着を持ってもらうこと、また仕事の間もしっかりあるということを早い段階で理解していただくことが定住につながっていくと考えるため、第 3 次戦略にはそういったご意見を十分参考にさせていただきたいと思う。

《委員》

小学生、中学生のうちから取り組まなければ地元愛を育てるのは難しい。今年、小中学生にボランティア精神を持ってもらうと同時に地域愛を育んでもらうことを目的に、作文とポスター、漫画を募集したところ、650 から 700 の応募があった。高校生からアプローチしても遅いと考える。子どもは意外と優れているのであなどらない方がいいと思う。

《委員》

気になった点として資料 3 の記載にだいぶ濃淡がある印象を受ける。進捗率が△のものは現状分析とそれに対する対応をしっかりと書き込んでいただきたい。例えば 5 ページ 17 番の説明を見ると、千葉県フィルムコミッションから相談があり撮影に至ったのが 6 件であったとの説明だが、何件の照会がありまとまったのが何件なのか。まとまらなかったものは何が理由であったのか分析し、結果をしっかりと記載することが次の対策に繋がるのだと思う。△のものはもう少し丁寧な説明をされると、市民の方に理解を得られると感じる。

《事務局》

調整する。

《委員長》

私から一点。子育てサークル数がゼロと続いている。先ほどボランティアも

会 議 内 容

活発に動いているとの話があったが、行政からだけの働きかけではなく、子育て経験者で活動の核になってくださる方とか、そういう芽を探し出す動きはできているか。

《事務局》

ここでの子育てサークルは市民の方が自主的に作るものを指しており、目的は子育て世代のコミュニケーションの充実である。確かに子育てサークルの設置には至っていないが、つどいの広場で講習会や活動が行われているため、それらの紹介や参加の促進を呼びかけることで、目的であるコミュニケーションの充実についてカバーできるよう努めている。

サークルの核となる人を見つけるという視点はなかったもので、貴重なご意見として担当課と共有を図りたいと思う。

《委員長》

できるだけ行政の中だけで閉じないように。それぞれの分野で得意な市民の方々が思うが、一足飛びにはいけないと思うので、一歩目の芽をこういうところに書いておくと次のステップが踏みやすいかと思う。

《委員》

どの政策もそうだが、市役所主導のサークルに来させる形である。市役所もマンパワーがない中で、5年もやってゼロという結果であれば、そのやり方はもうやめるべきと考えなければいけない。企業であれば同じやり方では継続できない。

ただ実際には、例えば野球チームがあって、子どもの送迎をしていればそこで既にサークルができている、部活動がある。大きい会社では社内にそのようなサークルがすでにある。サークルという考え方を変えて、行政側へ来させるのではなく、行政の施策で必要なものを提供する。そこからフィードバックをかける方が絶対に早いし、生の意見を聞いた方が実効性は遥かに高い。「行政で器も何も用意しました」ではお金も人手もかかる。そうではなく今あるものからまず活用する、これが大事かと思う。ただ、お子さんがいらっしゃらない人たちも一緒にいる可能性もあるので、配慮は必要かと思う。

職員の確保が大変な中なので、外部に話を聞けることは外部に任せるという手法は非常にマッチしているのではないかと思う。

《事務局》

参考にさせていただく。

《委員長》

子育て等の関連する部署だけではなく、活躍されている市民の方々への取材やワークショップ等で意見を吸い上げるのが有効かと思う。限られた時間と予算の枠の中になるかと思うが、市の中にすごい宝物がたくさんあると思うので、活用していただければと思う。

《委員》

令和42年に人口22,000人以上を目標としているが、人口はどんどん減っていく前提でまち・ひと・しごとの創生を考えていくことになると思う。人口や

会 議 内 容

定住者をどう増やしていくか非常に難しいことになると思う。

そのような中で、匝瑳市で何ができるかという、委員長がおっしゃられたように、世界に羽ばたく人材を育成するとか、よそに負けないような子育ての施策を作ることはできそうな気がする。

ただ、人口を増やしても、例えば流山市の人口は増えているが隣の松戸市は減っている。匝瑳市が増えても旭市が減るとか、人口の奪い合いは意味がない。それより今匝瑳市に暮らしている人の生活をどうやって豊かにするか、住みよくするかを考えるのが大事かと思う。

《委員長》

第3次に関わることだが、事務局に今の段階で答えはあるか。

《事務局》

令和5年度事業の評価が議題であるが、これまでのご意見は三次に関わるものだと思って拝聴しており、きちんと残していきたいと思っている。

(3)「匝瑳市人口ビジョン」改定方針及び「第3次匝瑳市まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定方針について

資料に基づき事務局から説明した。主な質疑・意見は次のとおり。

《委員長》

第3次に向けて作り込みをどうするか、方針をどうするか説明いただいた。ご意見ご質問あるか。

《委員》

資料6、2ページの第3次匝瑳市総合戦略の策定での説明のとおり、昨年、確か県で2番目の脱炭素先行地域の選定という特色ある形で選ばれ、環境省から50億円近い補助も受けられると聞いた。めったにないチャンスであるので、有効に活用する中で具体的なKPIを設置していただきたいと思う。

また、デジタル田園都市国家思想、DX推進は人が不足していく中で行政サービスの質を落とさないためにも必要であり、KPIの策定など力になれる部分があると思うのでぜひご相談させていただきたい。キャッシュレス化など具体的な点でも、本格的に取りかかっている周辺自治体もあるので、出遅れないように取り組んでいただければと思う。

不動産の活性化というか、街の活性化で課題に思うところが多い。匝瑳市で創業したり、企業を持って来たいといった時に、なかなか良い土地が見つからないこと、見つかっても空き家の提供、売却、賃貸という話をまとめるのがとても難しいことが壁となる。

理由の一つとして、老朽化した建物の取り壊し費用が土地の売却費用よりも高くなってしまったり、先祖代々で手放したくないなどの話がある。それがネックとなり、例えば駅前や商店街の開発だとか活性化がうまくいかないことが多いと感じる。不動産をうまく循環させる施策、観点も盛り込んでいただくと良いかと考える。

老朽化した建物がたくさんあると、街のイメージも悪くなるし危険もある。

会 議 内 容

避けては通れない課題だと思うのでご検討いただければと思う。

《事務局》

匝瑳市の空き家は500件以上あると把握している。対策として定住促進空き家バンク事業を実施しているが、売りたい土地の中に農地が含まれる、相続が済んでいないなどの問題があり、なかなか登録に至らない状況にある。除却に多額な費用がかかり、特定空き家になってしまう状況もあるので、そういった支援についても今後十分検討していきたいと考えている。

構想の段階だが、移住に特化した制度として、例えば空き家バンク制度を利用して都市部から転入してきた方に対し、リフォームに対する支援などを考えている。空き家の解消と移住定住、人口減少問題、これら課題をつなげ複合的に考えていきたい。

《委員》

令和2年から令和5年まで人の移動が非常に緩慢になったと思う。

空き家バンクにまだまだ登録されていない空き家があるだろうと推測するが、登録をして賃貸、売買、譲渡と持っていくには法律の縛りがあると思う。特に古い空き家、相続されていない物件は相当あるはずだが、不動産登記法が数年前に変更され、相続権者の不在を確定する法律ができた。そういったことを踏まえて空き家、古家を調査して鋭意社会へ放出していただきたい。

《事務局》

空き家の活用だが、空き家バンク事業も含めながら、より良い活用の仕方を庁内で検討して進めてまいりたい。今年度、宅建業者や協力いただいている方々を訪ね、登録件数を増やすためのアイデアも聴取したので、来年度色々できたらと考えている。

《委員》

宅地建物取引業者に対して相談をかけるということは、業者にとって非常に嬉しいことである。ましてや、コロナで人やお金の移動が緩慢になった時代であるから、どんどん情報をおろしていただきたい。

《委員》

全国の住宅総数は約6,200万戸で、空き家は約800万戸と言われている。空き家法ができてからはどんどん取り壊されたりして、多少減っている状態。使える空き家は使えばいいが、人口が減り空き家を使う人自体がいなくなると非常に難しいかと思う。

今匝瑳市を見てみると高齢独居の方がかなり多く、この方が亡くなるとそこは空き家になってしまう。子どもがいても都会に行ってしまい、空き家は放置されてしまう。

また、特定空き家になると壊さなくてはならない。所有者が壊さなければ行政代執行となるが、所有者が分からないと費用は行政が払ったままになってしまう。突き詰めると火災が発生したり、変な人が潜り込んだり、いろいろ弊害が出てくる非常に難しい問題である。ただ、高齢独居が多い以上、空き家が増えてくることは確実である。

会 議 内 容

過疎地域を見ると、どう人口を増やすか、観光客を呼ぶか必死にやっているがなかなか効果が出ない。円安の影響か観光地は日本人より外国人観光客の方が多いと思う。匝瑳市に外国人をどう呼んだらいいか、考えるが難しい。

前の資料に戻るが、強みと書いてあるところに、市民が安心して豊かに過ごせる、くつろぎや安心感がある、市民が生きがいを持ち生涯を過ごし活躍できる場があるとあるが、弱みのところに、働き場が少ない、観光産業や宿泊施設が少ない、若者が少ない、出産や子育ての施設が乏しい、とある。仕方がないとは思いますが矛盾する印象を受ける。

《委員長》

人口が減っても幸福感を感じる場所とは何か、後継者や働き場所の不足といった課題を空き家活用の視点で見るとどのような活用方法があるか、など、発想の転換が大事だと思う。空き家1戸1戸を見るのではなく、例えば特定の商店街やゾーンに対し集中的な対策を行う計画であれば、国の補助金なども使えるのではないかな。

デジタルで夢のある絵を描こうと思えば、工業団地には技術者が大勢いらっしや、例えば小中学生を入れて未来の匝瑳を考えることもできる。一歩先に出て弱みをつなげる。デジタルとはツールではなく発想力なのだと思う。

また、このグループに女性や子育て中の方がいないが、こういう時は女性職員を加えたり、子育て中の方やお孫さんのおられる方から間接的に聞くのが大事かと思う。

《委員》

SNS やユーチューブなどでの情報発信はとても効果がある。我々の仕事のお客さんも以前は知り合いからの口コミでという感じであったが、今は知らない人がどんどんホームページを見て来る。

《委員》

匝瑳市は負のスパイラルに突入している。人口減少で財源が不足し、市民サービスが低下し、転出が増加し、さらに人口が減少する。思い切った財源の集中的な活用をしていかないといけない。

総花的にやっても難しいので、子育ての支援、若者（小中高生）に対する働きかけ、農業の担い手支援、脱炭素推進、市民協働推進、この五つを考えた。要するに重点項目を挙げて、お金をかける、きめ細かいメニューを増やすということ。例えば高校生には起業家を育てる教育など、地元で働くところがなければ自分達で作るという発想でやっていかないと多分無理だと思う。第3次を作るに当たりその辺りの視点を入れ検討してもらいたい。

《委員》

街中がどんどん衰退していっていると感じる。観光協会では東京をはじめ色々なところへ赴き匝瑳市の魅力をPRしている。例えばもう亡くなられたが、地井（武男）さんが散歩の町という大きなイメージを作ってくれた。それを引き継ぎ散歩もやるし、サイクリングもやる、色々なコース作りをし、誘致を図っている。

会 議 内 容

しかし、道路と街路灯がほとんど整備されていないように感じる。街路灯は各町内が組合を作り設置したものだが、人口減少により管理費用の捻出が難しくなっている。可能であれば市で防犯灯をつけられないか。駅を降りて真っ暗な街に住みたいと思うだろうか。企業誘致も必要だが、散歩の街、自然が豊か、住みやすい町といった今あるイメージを磨くこと。まずは安全に来て散歩ができる環境を整えると、匝瑳市の魅力がまた強くなるのかなと思う。

《委員》

国でまち・ひと・しごと創生法を作り、その中での予算分配に当たり各自治体は総合戦略を策定しなければならない背景があると思うので、総花的になってしまうのは仕方ない面があると思う。ただ、財政事情を考えると集中的に的を絞り実施するのが良いかと思う。

《委員》

国も各省庁が地方創生の予算を取りに行く中では農業振興もあるし、商業も交通もある。様々なメニューに対応しようとする総花的になってしまうのは理解できる。

ただ、第3次を作る中では、第2次とはここが違うという項目が一つ二つあると市民の方に伝わりやすいと思うので、そういった作り込みを期待する。

KPI の設定について気になる点があり、一つは毎年度効果が検証できないものが多いと感じる。また、資料3、7ページ基本目標2の「匝瑳で暮らそう」だが、個別の評価は○だが総合の評価は△となっており、あまりリンクしていないと感じる。ここだけではないが、よく確認した方が良いかと思う。

最後に、DX の推進は人口減少や労働力不足、効率的な経営といった様々な課題を解決するための手段であると思う。推進自体が目的とならないように作り込むと良いと思う。

《事務局》

第3次では特色あるKPIの設定ができるよう工夫したいと思う。設定した段階ではやむを得ない部分もあったかとは思いますが、毎年度実績を出せない目標については改善できるよう努めたい。

《委員長》

DX やSDGs という観点もだが、行政だけで閉じない、協働という観点をどれだけ横断的に反映させるかが重要かと思う。

《委員》

匝瑳市に仕事がないとこれまでの話であったが、これは間違いかと思う。仕事自体はあるがミスマッチが起きている状況である。製造業は全く人手が足りないが、好条件を提示しても若者はソフトウェアやアプリケーション関連に就職してしまう。ミスマッチを防ぐ目的で高校生と地元企業との意見交換会を始めた経緯がある。

また、海匝地区共通の悩みであるが、成田市関連の企業の方が給料が高いため、匝瑳市と成田市の中間に住んでいて同じ仕事をするのであれば給料が高い方に行ってしまう。

会 議 内 容

先ほどの KPI の設定に関するご指摘は自分も 5 年前にしている。当時からすると相当良くなっているが、確かに目につくところではあると思う。

第 3 次総合戦略の策定の視点に、「効果的・効率的な取組が求められます」（資料 6、3 ページ（4））とあり、市側の体制も考えなければならない。マンパワー不足があり、今の業務量を定時ではこなせていないのではないか。税収も減り、人気がない職業にもなっていることから、効果が低いものは思い切ってやめる。これができる自治体が残る。あと法や規則に触れなければ、あまり細かい表現にこだわらないようにするなど必要。

行革では公務員の給料を下げろと言われるが、物価がこれほど上がってるのに同じ働き手である公務員の給料を下げるわけにいかない。国からおりてくるお金もあり、やらなければならないものもあるが、例えば課のマンパワーに合わせて、5 個 6 個やっていたものを重要な上位 3 つからやる方法もある。まず仕事量を減らすべきかと思う。そうでないといい仕事もできない。

DX やデジタルについてだが、本会議は録音した後どうされるのか。

《事務局》

文字起こしができるレコーダーを使用している。

《委員》

それなら良かった。企業も人手がいらないのを前提に考えていかなければならず、道具に頼れる部分は頼っていく。

この間県庁で「行政が一番後戻りしづらい業態だ」と聞いたが、せっかく決めるチャンスがあるのであればやめるべきものはやめるということを、特に課長以上の方、市長も含めて案として出して、必要があれば議会などに諮って決めていくと良いと思う。思い切ってやるとは、例えば銀行が昼休みに窓口を閉めるようにしたことがあげられる。決める時点で業務量を最初から絞ることがとても大切だと思うので、是非検討いただきたい。

先ほどから各委員がおっしゃるように、今地元にいる方を重視しないで市の質が上がることは絶対にない。住みやすさは口コミで広がっていくものであり、流山や松戸周辺など子育ての環境がよいところ、加えて病院があるところに人は集まる。このような面も含めてお考えいただきたい。

（４）匝瑳市の高校３年生に対するアンケート調査結果について（報告）

資料に基づき事務局から説明した。主な質疑・意見は次のとおり。

《委員長》

結果は資料のとおりだが、これをどう活用するかが重要となる。（時間の関係上）ご意見について次回発言する機会はあるか。

《事務局》

次回機会を設ける。

（５）その他

《委員長》

会 議 内 容

委員の皆様から何かあるか。

《委員》

本日市長は参加できなかったが、代読でも構わないので一言いただきたかったと、会議の総意ではなく一委員が言っていたと伝えていただきたい。

《委員長》

事務局から何かあるか。

《事務局》

本日の会議の議事録については、使用した資料とともに、発言した委員の氏名は伏せた形で市ホームページにて公開することとしたいがよろしいか。

《委員了承》

以 上